みなと

みなと２９号　２００９年１２月１日
兵庫県声の図書赤十字奉仕団
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5
日本赤十字社兵庫県支部内
（Tel）078-241-9889（Fax)078-241-6990
代表者：淡路　忠義
編集者：門田真弓美

交　流　会

2009年11月23日（月）

リスナー代表　森　幸子　様

皆様とご一緒に心の通う交流会を開催していただきありがとうございます。

あちこちから覚えのある声にふと話しかけたくなるような懐かしさと親しみを感じます。発足四六年という活動に、思えば私たちも共に歩んできたという歳月にひとしおの感慨を覚えます。

先月奉仕団の方々と高砂市の小学校にまいりました。五年生の総合学習の時間に視覚障害者本人の話をということで、私は白杖を持って話をしました。

視覚障害があることはとても不自由なことではありますが、普通の方と同じように生活をし仕事もし趣味を楽しみいろんなことに挑戦していること、そして自立を目指して前向きであること、それには本人の忍耐強い努力はもちろんのこと日々の生活の中での創意工夫そして身体の感覚それに想像力や力強い記憶力。それにもまして、周りの手助けや協力は、大きな力になってくれます。具体的に生徒さんに話しました。

一番悲しく思ったことは自分の目で活字を読めなくなり書くことができなくなったことです。当時の事が去来し声を詰まらせてしまいました。

それを補なってくれたのが声の図書のテープライブラリーでした。お話を終え教室を出ようとすると、生徒さん達が連れて行ってあげると可愛い手を差し伸べてくれました。四階から下まで上手にサポートして、前の時間に指導を受けたのです。うれしかったです。

奉仕団の方の地道な活動が根付いてくれます

第１９回交流会にて

昨日の冷雨もすっかりあがり、青空の美しい好天に恵まれて交流会が始まりました。

淡路委員長に続いて東田事務局長は「思いやりと支え合いが大切」と挨拶されました。そしてリスナー代表の森幸子さんの一言一言に心をゆさぶられました。(1ページに記載しました) 昼食は上伊の美味しいお寿司です。おやつのたこ煎餅は「どこで売ってるの」との声もありました。

イベントの最初は「邪乱亭地車」さんの落語です。駅の下り階段で座っている人にぶつかって転んだ事や、白状杖を取り上げて手引きする人等、様々な体験に「あるある」「そうそう」の声が聞こえます。次は安全奉仕団のＡＥＤのデモンストレーション、分かりやすい説明に、皆さん興味深く聴かれていました。デイジーに入れて欲しいとの要望もありました。次のヘルマンハープの演奏は6人の方が出演しました。車椅子の方もおられます。25本の弦は優しい澄んだ音を奏でます。ゆったりとした心地よい音色に、歌声が静かに重なり始めました。そしてその声は、次第に大きくなりました。最後はともしびGの群読「わっしょい」です。団員全員で挑みます。ぶっつけ本番のスリルある演出にわくわくしました。さすが朗読の仲間、きれいに言葉が聞こえます。リスナーの皆さんも一緒に会場いっぱい「わっしょい、わっしょい、まつりだ！」

楽しみにされている歓談の時間はあっという間に過ぎました。あっちの笑顔こっちの笑顔、今年も沢山の笑顔に出会えて幸せです。皆様お身体に気をつけて、また来年お会いしましょう。

門田真弓美（ことばの花束）

ヘルマンハープ

ドイツのヘルマン・フェー氏がダウン症の息子さんのために考案した弦楽器です。横30㌢縦60㌢位、洗濯板のような共鳴板に25本の弦を張り2オクターブの音を出せます。

専用の楽譜を弦と本体の間に挟み1曲ずつ取り替えます。

楽器ができて20年位と歴史は新しく日本に入って6年になり千台位が出回っています。

邪乱亭地車（じゃらんていだんじり）さん

視覚障害者の邪乱亭さんは通勤途中の出来事「私の日常」を演じられました。人を笑わせるのが好きだから落語家をめざしたそうです。名前の由来をお聴きすると邪乱とはインドネシア語ジャランジャラン「歩き回る」の意味。地車（だんじり）は貝塚にお住まいでお祭りが大好きなので付けたそうです。

座右の銘は「出来ないことを目のせいにしない」

好きな四文字熟語は？の質問に

「一生懸命」「一期一会」

第19回交流会を終えて

心配していた新型インフルエンザの影響もなく、天候にも恵まれて、リスナー63名、同行者39名、見学者１名、他の奉仕団の方５名支部から４名、盲導犬３頭、団員87名の参加を得て、和やかな交流会となりました。参加の回数を重ねるにつれ、お顔見知りのリスナーも増え、その方々に久しぶりにお会いできるのはうれしいかぎりです。

リスナー代表で挨拶くださった森幸子さんは、視覚障害者の体験を学校講習で話された時の子供たちとの交流も交えて心温まるお話をされました。イベントに出演してくださった山本（邪乱亭地車）さんの創作落語には共感をこめて頷く方が多く、一次救命の話も新鮮に聞かせてもらったという感想もありましたヘルマンハープの皆さんは優しい音色を響かせてくださり、なじみ深い曲に自然に歌声が湧きあがりました。　今回は会場の配置を工夫するなどいくつかの点を変更しましたが、また次年度へ反省点を申し送りたいと思います。

実行委員をはじめ団員の皆様のご支援ご協力ありがとうございました。また支部の方々にはいつもながらお世話になり、さまざまな点に御配慮いただきましたこと、心から感謝申しあげます。

交流会実行委員長　本村和代（こすもす）

第１９回交流会会計報告

収　入		支　出	
日赤交流会助成金	２５０，０００	弁当	１５９，７５０
		お茶２４本×１０ケース	２０，６６４
		お菓子・みかん	７２，７６１
会費@５００×１８７名 リスナー６４名 同行者　３６名 団員　　８７名	９３，５００	チャータバス　２台 @１０，０００×４（往復）	４０，０００
		イベント出演者謝礼	２５，０００
		その他	１，３４８
残り弁当販売	７，５００	振込手数料	８４０
小　計	３５１，０００	小　計	３２０，３６３
		残　高	３０，６３７

２００９　日赤支部・青少年プログラム等活動記録

5/06　「赤十字運動月間」キャンペーンイベント in 阪急西宮ガーデンズ
5/15　学校講習：ガイドヘルプ・お話　　南小田小学校（5・6年生、保護者の12名）
5/29　学校講習：点字　　南小田小学校（3年生～6年生　17名）

6/13　赤十字防災ボランティア説明会（午前）と赤十字ボランティア基礎研修会（午後）
7/05　赤十字防災ボランティア実践研修会
7/16　学校講習：朗読指導　芦屋国際中等教育学校
7/19　神戸まつりパレード
7/26　特別奉仕団支部連絡協議会
8/22　藤原紀香さんを囲んで
10/01　学校講習：点字　　加古川小学校（4年生153人）
10/05　学校講習：点字　　北浜小学校　（4年生54人）

10/15　学校講習：点字　　米田小学校　（4年生150人）
10/20　学校講習：点字　　曽根小学校　（4年生154人）

10/23　学校講習：点字・ガイドヘルプ・お話　　米田西小学校　（5年生110人）
10/22～11/26（5回）学校講習：朗読指導　　芦屋国際中等教育学校
11/4　学校講習：点字　　太山寺小学校　（5・6年生22人）
11/14　赤十字防災ボランティア説明会（午前）と赤十字ボランティア基礎研修会（午後）
11/16　学校講習：点字・ガイドヘルプ　　花園小学校　（4年生71人）
11/17　兵庫県赤十字大会有功章等贈呈式　　（於）兵庫県公館
11/23　第19回交流会
11/24　学校講習：点字　　中筋小学校　（5年生63人）
11/29　ＮＨＫ海外たすけあい　　ＪＲ三宮
12/06　赤十字防災ボランティア実践研修会

今年も早くも冬の便りがちらほら聞こえて参りました。平素は団員の皆さま方には、点字講習ガイドヘルプ講習、研修会等に参加、活動、又それぞれのグループ担当の作業等を積極的に取り組んでいただいています。また、佐用町の災害カンパにご支援を頂きました。今後もご協力のほどをお願いいたします。新型インフルエンザという有難くない風邪が流行っています、これから先も広がる傾向にあるということですので、十分に注意されて無理なく活動されますようお願い申し上げます　　委員長　　淡路忠義（あかりの会）

特集　　学 校 講 習

今回は学校講習の現在の様子をそれぞれに関わっておられる方々に語っていただきました。団員の皆様にもご理解をいただきご協力よろしくお願いいたします。

青少年赤十字加盟校提供プログラム

奉仕課長　　日下　幹生

日本赤十字社兵庫県支部では、青少年赤十字加盟校の活動の活性化を図るため、赤十字が提供できるプログラムを作成し、各加盟校で積極的に活用していただくよう努めています。そして、提供プログラムの中で加盟校から依頼の多いプログラムが、福祉教育プログラム（点字講習、ガイドヘルプそして朗読指導など）です。その実施にあたっては兵庫県声の図書赤十字奉仕団の皆さんに多大なご協力いただき、本年度は延べ１８校で実施させていただいており、公私ご多忙の中での支部事業へのご協力に対し、衷心より厚くお礼申しあげます。ご苦労をおかけいたしますが、今後も青少年赤十字活動へのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

学校講習に協力を！

鈴木　光代（そよかぜ）

声の図書赤十字奉仕団の団員は、防災ボランティアとしての役割や支部が支援する青少年赤十字加盟校への学校講習の協力も大切な役割です。

主な学校講習は点字講習ですが、視覚障害者へのガイドヘルプや視覚障害者のお話・朗読指導も実施しています。点字講習は、点字班の方々に、準備・講習をお願いしています。現在、加盟校に高砂市近辺が多く、朝８時に三ノ宮駅集合などと貴重な時間を割いて協力下さっています。

ガイドヘルプの講習依頼も徐々に増えてきており、先般団員対象の講習会も開催し学校講習に協力頂きました。

一部の方々に頼らないで、声の図書奉仕団全員で協力し合って、学校講習への支援をしていきましょう。

ガイドヘルプの学習指導に関わってみて

田辺　依子（ともしび）

授業のはじめに、折り畳み式白杖を伸ばして見せると殆どの子供は興味津々といった顔つきになります。それから目の不自由な人にとって聴覚をはじめ、五感の大切さ、手引きのノウハウを説明しますと真剣に聞いてくれます。その後二人一組で交互にアイマスクをかけ、手引きの体験をしてもらいますが、最初のうち怖くて騒いでいた子供も、すぐ要領を覚え、階段を　　イチ、ニー、イチ、ニーと小声で呟きながら上がるようになります。わずか 45 分の短い時間ですが、この体験を通して白杖を持った人を見かけたら道を開けるとか、何か障害物があったら知らせてあげられるよう思いやりの気持ちが芽生えることを願っています。

芦屋国際中等教育学校福祉教育プログラム

阿部　陽子（はあもにい）

老人ホームに贈るテープを作りたい、という希望で、そのお手伝いに出かけました。

まず7月16日に行って朗読のあらましを話しました。滑舌から母音・子音の注意点、内容をよく掴んで、伝える気持ちで読む、心のスイッチの切りかえ、そして実際にテープを作る上での手続き等、私がン十年かけて会得したものを2時間で駆け抜けたという感じです。4年生（高一）のお嬢さん達がどこまで把握してくれたかは分かりません。

でも2学期に入って週1回、5回にわたって、テキストを使って「朗読」の勉強に入ってからは、さすがに若い柔らかな頭脳で飲み込みの良さには驚かされました。

まず、どういう文章であるか説明なしに2人（登録は9名です）に読んでもらい、次に物語のあら筋や、登場人物の性格など説明して、その他のメンバーに読んでもらうと、もうすっかり色付けが出来て人物が生きると動き出すのです。

内容をよく掴みイメージを膨らませて読むという点だけを強調するという感じです。言うなれば、基礎の練習を飛ばして「コツ」を教え込むという形でしょうか。本当なら半年なり1年なりかけてゆっくり練習して行けば立派な「読み手」を育てることが出来ると思うのですが、この経験を通して「朗読」の面白さに目覚め、将来本格的に勉強しようと思ってもらえたら幸いだと願うばかりです

なお、学校の都合で最終回が11月26日になり贈るテープはまだ出来ておりません

点字講習

杉本　和子（青年）

5年前から学校で点字講習。大声だから講師を始めた私だが、今では講師6人、それぞれ個性豊かに点字を伝え、みんなが校正もでき資料も適格で、頭が柔らかい子供達は直ぐ習得してくれる。しんどかったけど、楽しかった。面白かった、簡単だ等の点字での感想。

「これがほしい」と両手で点字板を抱く子「**メッチャ**点字に**ハマッタ**」と笑う子、先生が『落ち着きのない子が点字を沢山書いた』と喜んで下さる。『ああ、中途半端で終了・・・』と反省する私に、「孫のオーラで光っていたよ」といたわり励ましてくれる仲間、「準備・資料作りは任せて」と、口だけの私を支えてくれる仲間、みんなに感謝しながら生き生き楽しく点字をひろげたい。

子供達のお手紙から

「目の不自由な人たちはこんなにたくさんの点字を覚えるのは大変だな」

「もっと点字のある場所やものなどを見つけて読んでみたい」

「点字を打つときのプチプチという音が楽しくて気持ちよくていっぱい打った」

「点字がなかったらその人はとても不便なことになることがわかりました」

「自分の名前やうまれた年を点字で書けるようになったのが今でもゆめのようです」

（お手紙には点字も添えられていました）

デイジー班

デイジー図書の今

「日赤声のアルバム」発行から２年目に入り利用者も 100 名を超えるまでになりました。編集作業、発送作業受け入れ作業とそれぞれグループの皆様の活動も熱心に行われています。

利用者からは単行本のデイジー図書希望も増えていますので、今後の新しい図書録音については、デイジー化に備えた録音マニュアルに従ってください。

隔月に行われるミーティングでは、問題点について検討を重ねています。音のばらつきなど、もとになるテープの作成における問題点を共通課題として取り組んでいただくためにアナログ入力とデジタル入力のちがいなどについて、器械に詳しい方にお話をうかがって勉強する機会を持ちました。

アナログでは０デシベルまで上がるように録音し、デジタルでは 10 デシベル以下になるように注意して録音する事で、より良いテープ作りを心掛けて行きたいと思います。

片山　恵（神戸ＹＷＣＡ）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

点字班

点字班の活動を紹介します

・月刊・季刊発行制作テープ・ＣＤのケースに貼付するラベルの点字（墨字つき）。

・録音図書目録（担当は「ことばの花束」グループ）の点字版。

・リスナーとの交流会の点字プログラム。

・学校点字講習会の資料として「贈る言葉」の歌詞を点字（墨字つき）で作成。

・神戸市人権推進課依頼の「子どもたちへのメッセージ集２００９」の点字版（６部）作成中

・折り紙サークル「紙ふうせん」と共同で、折り紙メッセージカード（墨字と点字）を制作。（震災を経験した大人から子どもたちへのメッセージを、点字器を使って手打ち。折り紙を添えた完成カードは、メッセージ展などで配布していただいている）

・その他、点字を打つ・打った点字を校正する・打ち出した点字を読み取るなど、点字マニュアルに沿った勉強会も随時行なっています。

もっと多くのかたに点字への関心を持っていただけるよう、皆で力をあわせ、地道に活動を続けたいと思います。毎月第３火曜日（１０時から１５時まで）が、点字班の例会日です。一度是非見学においでください。お待ちしております。

福井克子（はあもにい）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

単行図書検討会

お知らせ

単行図書検討会が発足して、はや半年が過ぎました。毎月末に５名の委員が集まって、単行図書についての改善点を検討しております。そして、希望図書やテープ＆デイジーの制作状況など単行図書最新情報を、「単行通信」にて各グループにお知らせしています。単行図書がより多くのリスナーさんに聴いていただけるよう、利用希望のある図書かどうかを検討させていただくことになりました。

単行本を録音される方は、図書録音台帳に図書名・録音者等を記入し、録音中のファイルの申請中（黄色の台紙）に挟んでください。毎月１０日までの台帳を検討会で検討させていただきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

神坂順子（こすもす）

花　時　計

7月号（こすもす）
- 星新一作「未来イソップ」より
  北風と太陽、カラスときつね、うさぎとかめ
- 西沢実作「瀬戸内の鬼」
- 暮らしの手帖すてきなあなたに　より
  「夏の小さなデザート」
- 野の花便り 365 日より「瑠璃玉薊」
- 河合和子の旅便り
  「シカゴとカナダの友人を訪ねて」
- 「酒飲みは永遠に」
- 暮らしの手帖すてきなあなたに　より
  「サラダのお皿に」

特に面白かったのが「うさぎとかめ」と青鬼の未亡人の裁判官での手紙でした。新しい切り口というか、風刺の効いた中身に思わず引き込まれて「まじめに」聴いてしまいました。　　藤野孝明さん

8月号（はあもにい）
- ワクワクドキドキどんな人に会えるかな
  住吉小学校　室屋尚子先生
- 音楽とリラクゼーション
- 射場崇夫さんの音に出会おう　射場崇夫さん
- 旅行記「浮いた！死海浮遊体験」
- お化けとゆうれいの話

夏の音は楽しく聞かせていただきました幼い頃花火の音に驚いて逃げ回ったそうです。また音のするおもちゃを沢山買ってもらいました。散髪の時の電気バリカンの音が嫌でした。　　松本民雄さん

9月号（ともしび）
- 中野光章詩集より
- 倉本聡「豊かさの根っこ」より　　「人」
- 「明治の灯は消さず！　マッチの話」
- 伊藤博文と神戸

１０月号（ことばの花束）
- 神戸市立海外移住と文化の交流センター
  オープン
- もったいないを合い言葉に
- 茅葺きコンサート
- 楽しもう論語
- 「心に花を咲かせて」より

秋は「芸術の秋」だと思います。私は俳句をしていまして俳号を「緑香」と言います。始めて出会ったのは中学１，２年の頃です。
老僧の経読む顔にあめしずく（緑香）
松本民雄さん

シクラメンの花作りを聴いてすごいなと尊敬しました。花に囲まれることはとても良いことです。長持ちさせることは心が花に伝わるんでしょうね。そこへ行きたい思いです
鈴木美智子さ

１１月号（神戸ＹＷＣＡ）
- 時田さんインタビュー
- 舟橋敬子さんのカナダ便り
- 山崎和子の「北欧駆け足の旅」
- 家電と安全に付き合うために

学生の頃「セビリアの理髪師」や「ヘンゼルとグレーテル」のオペラを聴きに行きました。動作を伴うと、見るのに重点が置かれるので困りました。また学生の頃演劇部に所属していて大きな声で、はっきり言えとか大きな動作で･･･など叱られたのを思い出しました
松本民雄さん

ルイ・ブライユ

ルイ・ブライユがフランスで生まれて、今年で２００年になります。
３才で失明、５才の時に世界初の盲学校・パリ訓盲院に入学します。
フランスの軍人、シャルル・バルビエが、軍の夜間伝令の暗号用に
作った「点」を組み合わせた「記号」から盲人用の「１２点点字」
を考案しました。
当時、訓盲院の生徒だったブライユが「３×２」で並ぶ点字を
あみだし「６点式」の点字を考案しました。そしてアルファベットと
数字を完成させたのは、ブライユ１５才の時でした。
１８５４年にフランスは、ルイ・ブライユの点字を正式に採用します
「六つの点」で字や記号を表す方式は、在米留学生やロンドンの
教育博覧会など世界に広がって行きました。

政　芙美子（あけぼの）